授業科目名	開講年次	開講時期	単位数	時間数	実務経験
成人老年看護学実習Ⅰ	3年次	前期	3	120	有

科目責任者	西村禎子他
目的	様々な健康問題を持ち回復困難な状態にある成人・老年期患者（家族）に対して、対象にとって最適な健康状態を目指し、根拠に基づいた援助を実践できる能力を養う。
目標	1. 慢性的な健康問題や機能障害を抱えながら生活を送っている対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 2. 対象のおかれた状況、セルフケア能力、発達段階、生活史・背景、価値観などを考慮した援助の必要性が述べられる。 3. 症状、機能障害、ADLのレベルに合わせた日常生活の援助を行うことができ、自己の実践を評価しながら看護展開できる。 4. 対象（および家族）とのかかわりを通して、看護における援助関係が構築できる。 5. 看護実践における自己の行動を振り返り、看護者としての在り方や看護観を深め、自己の課題を明確にできる。

内容

回	内容
1	学内オリエンテーション（実習目的・目標・方法、病棟の概要等） 学内演習（知識・技術） 病棟オリエンテーション、受け持ち患者の紹介・挨拶、情報収集
2	（1例目）患者の情報収集、アセスメント、関連図作成、看護問題の抽出
3	
4	学内演習（患者のアセスメント、関連図作成、看護問題の抽出、技術練習、文献検索）
5	中間カンファレンス、看護計画立案
6	中間評価面接、計画に基づいた看護ケアの実施、評価・修正
7	（2例目）患者の情報収集、アセスメント、関連図作成、看護問題の抽出、看護計画立案、計画に基づいた看護ケアの実施、評価・修正
8	
9	学内演習（患者のアセスメント、関連図作成、看護問題の抽出、看護計画立案、技術練習、文献検索）
10	（2～3例目）患者の情報収集、アセスメント、関連図作成、看護問題の抽出、看護計画立案、計画に基づいた看護ケアの実施、評価・修正
11	
12	
13	
14	最終カンファレンス、計画に基づいた看護ケアの実施、評価
15	記録提出、最終評価面接

履修条件	1・2年次全ての単位を修得していること
評価方法・基準	実習要綱に定める